

埼玉県立総合教育センター
公立高校中期研修会
「キャリアプランニング」出張授業資料

知識専門職としての先生としての学習方法を考える

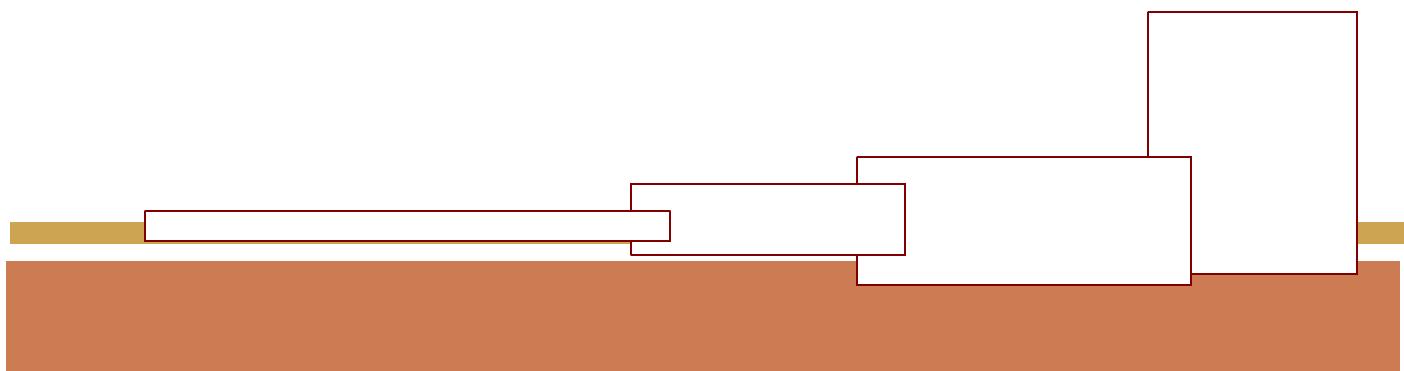
— 「深い理解」、「学んだことを自分のことばでいえる(表現・説明できる)」を目指して—

2026年1月27日(火)

10:40～12:10

埼玉県立総合教育センター

公益社団法人経済同友会会員
林 明夫



＜講師プロフィールに添いお話をさせていただきます＞

○私立花園幼稚園卒業(日本最古の学校、史跡足利学校横)

○足利市立山辺小学校卒業

- (1) 小3～4クラス担任、岡典子先生（小学4年生は、新聞を毎日読もう）
- (2) 小5～6クラス担任、高田健司先生
- (3) 小5～6年学年主任、西田正源先生（相田みつを先生の友人）

○足利市立山辺中学校卒業

- (1) 中2～3年クラス担任、岡田忠治先生、「ブルドック魂（食いついたら離すな）」
- (2) 中1～3年柔道部顧問、椎名弘先生、「練習で泣いて、試合で笑え」

○栃木県立足利高校卒業

- (1) マラソン大会の合言葉：「一所懸命」
- (2) 現代国語担当、倉沢先生、「本は全集で読む」
- (3) 校門のところにあった小さな体育館くらいの図書館に、皆、毎日通う。
先生方も、猛勉強している様子を見る。
- (4) 3年間同じクラスの同級生：6名が医学部（3名が、現在、市内で開業）、
裁判官、日本ペットボトル協会会长
日本不動産鑑定士協会会长、コーネーテクモ創業者襟川陽一君
- (5) 1年次から、夏休み、多くのクラスメイトが、バケツに足を突っ込み、自学自習
- (6) 高2の倫理の時間、荻生徂徠の発表を担当、以来、哲学・思想への関心が深まる

○慶應義塾大学法学部法律学科卒業

- (1) 1年次フランス語を選択：アンドレモーロアの講読、最近著作を再読、感銘を受ける
- (2) 2年次、サブゼミ、「法思想史」峯村光郎教授、
「法律を学ぶ法学徒は、いつも最悪の場合を予想して行動せよ」
- (3) 3・4年次のゼミ、「刑事政策・被害者学」の宮沢浩一教授「注意一秒、ケガ一生」
数多くの矯正施設を視察
- (4) <スポーツの3つの宝>（小泉信一塾長のことば）
 - ①練習は不可能を可能にする
 - ②フェアプレー
 - ③よき友
- (5) 独立自尊
- (6) 29歳まで、慶應義塾大学法学部司法研究室研究生、

○29歳の時、開倫塾創業

- (1) それまで、予備校や学習塾の講師、家庭教師の経験を生かす
- (2) 店舗を借り、開倫塾を足利市内で創業、塾長に就任、今日に至る。

- (3) 熱心な社員に恵まれる。
 - (4) 創業数年後、全国の学習塾を毎週のように視察。
 - (5) 多くの同業の学習塾・予備校の先生方から御教えを頂き、今日に至る
 - (6) 「我以外、すべて、師」

○上智大学大学開放講座（コミュニティ・カレッジ）

- (1) 英会話中級：テーマは人間の安全保障、
：Human Security:Protect(保護) と Empowerment (能力強化) >
 - (2) 異文化教育方法論（渡辺文雄教授）<エポケー（思考停止）演習>
 - (3) カルチャー・マーケティング（田中利見教授）
「フィリップ・コトラー」教授の「マーケティング理論」に基づく研究
 - (4) <マーケティングの4 Pと顧客との関係>
 - ① Product (製品・サービス) 顧客の問題解決
 - ② Price (価格) 顧客の負担でないか
 - ③ Place (場所、立地、流通) 消費者の利便性
 - ④ Promotion (広告宣伝・広報) . . . 消費者とのコミュニケーション

○世界銀行研究所、ハーバード大学行政大学院国際開発研究所で、各々、公共部門の民営化 集中コースを修了。国立シンガポール大学行政大学院でもハーバード大学のコースを修了

- ① Transparency, ② Accountability, ③ Corruption

○ OECD IMHE(高等教育管理)プログラムに参加、(2000年代~2010年代)

PISA 調査の根底となる学力観：キーコンピテンシーズ

- ① 「知識基盤社会」・・・「知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力」
 - ② 「グローバル社会」・・・「多様な集団で交流する能力」
 - ③ 「課題山積社会」・・・「自律的に活動する能力」
 - ・学び方を学ぶ力 (learning to learn、学習の学習)

○栃木県経営品質協議会に参加、

- * 2001年栃木県経営品質賞知事賞受賞
 - * 2008年日本サービス大賞受賞

- (1) 卓越した経営 (Performance Excellence)をめざす。

- ## （2）経営の基本理念：

- ①顧客本位、
 - ②独自能力、
 - ③社員重視、
 - ④社会との調和

- ### （3）顧客の定義：

- ① 塾生、

②保護者、

③地域社会

(4) 3つの「ベストプラクティスのベンチマーク」：

①社内ベストプラクティスのベンチマーク

②同業他社のベストプラクティスのベンチマーク

③異業種のベストプラクティスのベンチマーク

(5) リーダーシップ：

①「サーバントリーダーシップ」

②真のリーダーとは、後ろを振り返ると、人がついてくる人

③メンバーのよいところを見出し、励まし続ける。

(6) 「励まし合う仲間づくり」

○開倫ユネスコ協会設立 <2001年>

(1) 設立の基本理念：人間の安全保障の推進

(2) 開倫ユネスコ杯ドッジボール選手権大会

(3) 童話大賞→文芸大賞表彰

(4) 国際連合ユネスコ世界哲学の日、記念講演会（毎年、11月第3木曜日）

○マニー株式会社（精密機器、手術用縫合新製造）、社外取締役、2004~2010年

(1) 本社：栃木県宇都宮市、現地法人：ベトナム、ミャンマー、ラオス

(2) ①「世界最高の製品を世界のすみずみに」

②「世界一か、否か」会議。

③「トレードオフ」；やらないことを明確に決める。

(3) ①2008年、ポーター賞受賞

②一橋大学大学院国際企業戦略研究所、「ポーター賞」のHPを参照下さい

③「マイケルポーター」教授の「戦略論」に基づき表彰

○栃木県社会教育委員、2004年~2012年

・栃木県内の社会教育施設を数多く視察（特に、学校図書館、公共図書館）

○公益社団法人経済同友会幹事、2004~2023年

(1) 学校と企業の交流活動推進委員会で、数多くの中学・高校・教育委員会に出向授業

(2) 栃木県経済同友会、群馬経済同友会にもこの活動を紹介、活動の輪を広げる

(3) 対内直接投資促進委員会副委員長、サービス産業委員会副委員長を以前拝命。

(4) 現在、中東アフリカ委員会、インド委員会、アジア委員会、韓国委員会、中国委員会、米州委員会、欧州委員会、規制改革委員会、企業改革委員、企業改革委員会などに所属

○足利市英語教育推進プロジェクト会議、委員、2011~2012年

・上智大学吉田研作先生のご指導で、足利市内の公立中学の英語の先生は英語で授業。

＜現在の活動＞

○開倫塾、塾長

(1) 教育目標：

- ① 「高い倫理」
- ② 「高い学力」
- ③ 「高い国際理解」
- ④ 「自己学習能力の育成」

(2) 教育の成果を決定する要因：

- ① 「本人の自覚」
- ② 「先生の力量」：(本人の自覚を促すのも先生の力量に含まれる)

(3) 「効果の上がる学習方法」を育成

- ① 「学習の3段階理論（理解・定着・応用）」

(4) 行動目標：教え方日本一

- ① レッスンプランに基づいた授業（Can Do）
- ② 「全国模擬授業大会」を毎年開催

○開倫塾日本語学校理事長、校長

(1) 定員 80名

(2) 地域の公立中学校、私立高校、企業に日本語教師を派遣

(3) 栃木刑務所にも先生を派遣

（法務大臣表彰、過去15年間、1600回出張授業）

○開倫ユネスコ協会、会長

(1) 「人間の安全保障の推進」が設立の基本理念

(2) 「文藝大賞」（童話大賞からスタート）

(3) 「KAIRUN 杯ドッジボール大会」（各県ドッジボール協会と共に）

(4) 「ユネスコ世界哲学の日」記念講演会

*毎年、11月第3木曜日は、国連が定めた、「ユネスコ世界哲学の日」。

(5) 「ユネスコスクール」の普及・活動支援

○有朋学園有朋高等学院、理事長（福島市）

(1) 地域における不登校の生徒・保護者・先生方の支援機関

(2) 生徒・保護者・地域に寄り添う（中学校卒業性の問題解決）

(3) 先生方には、大学院修士か同等の資格取得をお願い。

○社会福祉法人両崖福祉会特別養護老人ホーム監事（足利市）

(1) 市内に6施設

(2) 入居者のQOL（クオリティ・オブ・ライフ）向上

(3) 働きやすい職場環境の整備

○公益財団法人文字活字文化推進機構、評議員

「辞書・新聞・読書・図書館を活用し、読解力を身に着けよう！」

- (1) 「辞書教育」(ことばは力、語彙力は力)
- (2) 「新聞教育 (NIE 新聞を教育へ)」(批判的思考能力、クリティカル・シンキング)
- (3) 「読書教育」(思慮深さ、自省心、省察力、創造性)
- (4) 「図書館教育」(学校図書館、公共図書館、大学図書館、街角図書館の活用と支援)

*図書館を「自分の居場所、サードプレース、ホッとできる場所に」 4

○足利商工会議所議員、足利 5 S 学校役員、

- (1) 足利市は、「論語と 5 S の街」(5S サミットも開催)
- (2) ①日本最古の学校、「足利学校のある街」
 - ②「ここファームワイナリー」
 - ③「足利フラワーパーク」
- (3) <5S (ごえすとは、S で始まる、5 つのことば>
 - ①「整理」 seiri · · · いらないものを捨てる
 - ②「清掃」 seisou · · · きれいに掃除
 - ③「整頓」 seiton · · · ものは、同じところに置く
 - ④「清潔」 seiketsu · · ①～③を継続
 - ⑤「躰」 shituke · · · 自分から進んでやる
- (4) <別の意味の「躰 (しつけ)」も大事。
 - ①「美しい立ち居振る舞い」・「仕事では服装第一、「After, you」も大事…
 - ②「美し言葉遣い」・ · · · · 「敬語表現を含む言葉遣い」
 - ③「元気なあいさつ」・ · · · · 「あいさつは、こちらからするもの」

○日本商工会議所多様な人材 (女性・シニア・外国人材) 活躍推進専門部会委員

- (1) 男女共同参画社会の実現
- (2) 高齢者の労働参加・社会参加、
 - ①生産年齢人口の定義 <15 歳～ 64 歳> の見直し、
 - ② 15 歳から、85 歳・95 歳に、
 - ③生涯現役社会の実現、人生 100 歳時代に備える
- (3) 外国人材活躍推進
 - ① 2040 年在留外国人 1000 万人時代にふさわしい制度設計
 - ②問題多い技能実習制度を廃止、育成就労、特定技能制度の実現を提言
 - ③日本語教育の推進

○宇都宮大学大学院工学研究科客員教授、作新学院大学局員教授

- (1) MOT (技術経営)
- (2) 技術士
- (3) 栃木のよさを知り、地元就職を奨励

○佐野学園（神田外語グループ）イグゼクティブ・アドバイザー

○一般社団法人栃木県生産性本部、会長

- (1) 栃木県経営品質協議会副会長
- (2) 積小為大委員会副委員長
- (3) 栃木県生産性向上月例研究会を開催
- (4) 栃木県知事に生産性向上に関する政策提言

○公益社団法人栃木県経済同友会、理事

- (1) 公益社団法人経済同友会（東京）、会員
- (2) 群馬経済同友会、会員
- (3) 福島経済同友会、会員

○栃木県県立足利高校同窓会、副会長＊足利高校・足利女子高合併、同窓会の合併

○CRT ラジオ栃木放送、「開倫塾の時間、林明夫の歩きながら考える」、社会人を含め、

- (1) 「効果の上がる学習方法」をお伝えする番組を一人で担当。
- (2) この3月で、40年目になります。毎週、土曜日、午前9時15分～25分放送中。
- (3) 毎週金曜部、午前9時から翌日、土曜日、放送の番組収録。

○月刊「私塾界」に、「学習塾、予備校、私立学校の経営幹部の先生方を対象に、見開き、2ページの、コラムを連載中、20年目。

- (1) 業界の発展を願い毎月執筆
- (2) 先生としての見識を深めるため、参考になる本を、毎月ご紹介
- (3) 先生方の目が輝けば、生徒の目も輝く。
- (4) 「先生方の人生は青天井、一生青天井」
- (5) 「一生勉強、一生青春」
- (6) 「深い理解」「学んだことを、自分のことばでいえる（表現・説明できる）」

○会員

- (1) 日仏教育学会、
- (2) 教師教育学会、
- (3) 大学教育学会、
- (4) 日本工業俱楽部、
- (5) 交詢社、
- (6) 日本外国特派員協会（FCCJ）

Q 1：企業が求める人材は何ですか。学校教育に期待することは何ですか。

A : これから時代にふさわしい人材です。

(1) まず第一に、これから時代は「知識基盤社会」です。ですから、そこで求められるのは、「知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力」です。

(2) ①「知識」とは、例えば、小学校・中学校・高校・大学・短期大学・専門学校・専修学校・大学院など「学校」で学ぶ全内容、全教科の知識です。

○学校で学ぶことはすべて役に立ちます。

○学校の教科書は、決して処分しないこと。

②「情報」とは、生成AIやChat-GPTやインターネットはじめ、文字や映像、データなど、様々な手段方法で得られる情報です。

③「技術」とは、ICTはじめ、ありとあらゆる分野で用いられる技術です。

④「相互作用的に用いる能力」とは、うまく組み合わせて使いこなす能力です。

(3) ①そのためには、ものごとの「深い理解」、つまり、「自分のことばでいえる（表現・説明できる）こと」が求められます。

②「深い理解」を得るためにには、例えば、「学校の授業」についていえば、「予習」「授業」「復習」「定着」の大切さ（価値）を認識し、自分なりに意味付けし、自分から進んで行動、主体的に学ぶ力を身に着けること。

③「価値」「意味」「秩序」に基づき、自律的に行動すること。



Q 2：これからの社会の第二と、そこで求められる能力は何ですか。

A : (1) 第二是、「グローバル社会」です。

①「グローバル社会」とは、「人・モノ・お金が国境を越え行き交う社会」です。

②「グローバル社会」で求められるのは「多様な集団で交流する能力」です。

(2) ①「多様な集団」とは、「国や地域、歴史や文化、価値観やものの考え方、法律や制度、規範意識、慣習、社会のルール、生活様式などが異なる人々が構成メンバーとなる集団」です。

②「交流することができる」とは、「いっしょにいることができる」、「いっしょに活動（仕事や社会的活動、生活や行動を共にする）」、

③「トラブルを起こさず、うまくやる、目的や目標を成し遂げることができる」です。

(3) ①「コミュニケーションの手段」として「英語」の習得は欠かせません。

②日本人は、英語学習の際、徹底的な発音練習と暗唱をほとんどしていませんので、英語を話す力が極端に低いようです。

③また、英語の文章を読む量が少なすぎるために、英語の新聞が読めない、TVやラジオのニュースが聞き取れない。



④書き取り練習や作文練習をしない英語学習者が多いため、会話などでもメモが取れない、レポートが書けないことが多いようです。

⑤内容のあるディスカッションが英語で可能な日本人は少ないようです。

(4) ①相手の発言をそのまま聞き取り理解し、その旨相手に伝える「エポケー（思考停止）」は、効果的です。

②「～さんは、～について、～とお考えなのですね」と「付加疑問文」で答え相手の言ったことを「承認」し「確認」。

③自分の価値判断を全く入れず、「傾聴」、相手を全面承認。

(5) それから、自分の意見や考えを述べる。

① その際大切なことは、自分自身や、家族、友人、自分の学ぶ学校、地域、所属する団体、日本について、初めから、欠点や問題点は、口にしないことです。



② 「私は英語を話すことが得意でない」「この町には何もない」「日本には文化も歴史もない」などと、最初から話すと、本気にして、「そのような人と、交流したくない」と考えてしまうことが多いからです。

③ 自分自身の夢や希望、興味のあること、取り組みたいこと、長所を、「自分のことばでいえる（表現・説明できる）」自分の学校や住んでいる街、所属しているグループ、都道府県や日本の、歴史や伝統、素晴らしさを「自分のことばでいえる（表現・説明できる）」ことを目指す。

④ そのために、自分自身のことを深く知る（省察）、自分の将来のことを考え他人に話せるまでに言語化、自分の母校や、住んでいる街、都道府県、日本の地理や歴史、文化、伝統など、少しづつでも学び、「深く理解」、「自分のことばでいえる（表現・説明できる）」ようにする。

(6) 同時に、相手の国や地域の地理や歴史、産業、文化、伝統、学校制度や、教育制度、社会の仕組み、生活様式、ものの考え方、優れた取り組みなどに关心を持ち、学ぶ。言語にも关心を持ち、少しづつでも学ぶことが大切です。

(7) このようにして、相互理解、相互尊重、少しづつ「交流」が可能になります。

Q 3 : これから社会の第三と、そこで求められる能力は何ですか。

A : 「課題山積社会」です。「課題山積社会」で求められる能力は、「自律的に活動する能力」です。

(1) 「課題山積社会」とは何か。

① 「現代」は、日本だけでなく、世界中で、今までに経験したことがないような様々な「歴史的な」、自然現象、社会現象、経済現象が次から次に発生し続けている社会です。

② たとえば、「低頻度巨大自然災害」「パンデミック」「ロシアのウクライナ侵攻、ハマスのイスラエル侵攻とイスラエルのガザ地区侵攻のような、局地戦争と、地政学と世界経済に及ぼす大影響」「世界は人口爆発、日本は超少子高齢化・超人手不足」です。

③ 文字通り、世界は、日本は、「課題山積社会」です。

(2) 「課題山積社会」で求められるのは、「高い志」を持ち、それらの課題を、自分から進んで解決する「自律的に活動する能力」です。

(3) ① 「自律的に活動する能力」を身に着ける前提是、ものごとを正確に、論理的・分析的に読み解く力、「読解力」です。



② 「読解力」を身に着けるのに役立つのは「辞書」「新聞」「読書」「図書館」に慣れ親しみ、最大活用することです。

③ 「辞書」：意味の分からい語句があったら「気持ちが悪い」と思い、辞書を用いて調べる。

・辞書で調べたことは、ノートなどに書き写し、その場で覚える。

・文字は力、語彙数は力です。

・<「辞書教育」を>

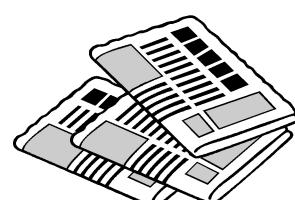
④ 「新聞」：新聞を、毎日、1面から舐めるように読み、世の中の出来事を知る。・そして、「自分で考える力」「批判的思考（クリティカル・シンキング）能力」を身に着ける。

・気になる記事は、ジャンル別のスクラップブックを。

・「新聞を読まずして、社会的課題の解決なし」。

・「新聞なくして、探求型学習なし」

・<今こそ、「新聞教育（NIE）」を>



- ⑤「読書」：「著者との時空を超える対話」をおこなう「本格的読書」で、
 「思慮深さ」「省察力」「創造性」「表現力」を身に着ける。
- ・「各教科の学校教科書で紹介されている作品」は、「学校時代から少しづつ慣れ親しみ、一生かけて、繰り返し読んではほしい」という、教科書編集者からの「メッセージ」。
 - ・「読書のガイダンス集として、学校教科書を活用」。
 - ・気に入った語句や文章に出会ったら「書き抜き読書ノート」に書き写しを。
 - ・<「読書教育」を>
- ⑥「図書館」：「学校図書館」「公共図書館」「大学図書館」「私設図書館」に慣れ親しみ、「辞書」「新聞」「読書」と親しむ。
- ・図書館は「知の拠点」。
 - ・「大学図書館」は「大学での学問的中心」
 - ・「サードプレース（第三の居場所）」に。



Q 4：学校教育に期待することは何ですか。

- A : (1) 第一は、高校卒業後大学、短期大学、専門学校、専修学校など、「高等教育機関」に進学する高校生が専門高校でも激増している現在、「高等教育機関」での教育や研究に耐えられる、高等学校卒業生としての、全教科の基礎学力、基礎的な能力を、高校時代にキチンと教育することです。
- (2) ① 第二是、大学などで求められる高校で学ぶべき基礎教科を、高校で学んでいない場合は、大学での、初年次教育や、リメディアル教育の対象になります。
- ② しかし、なかなか、大学入学後の「高校内容の学び直し」は大学では困難です。
- ③ そこで、推薦入学などで進学する大学等が決定した後、高校3年生の3月31日まで、不足する勉強を高校で指導し、大学等に送り込みをお願いしたい。
- (3) ① 高校での教育内容は、後期中等教育として最高レベルのものとして、全教科、高く評価されています。
- ② 大学等でも、また、社会に出てからも、全教科の全内容は、全て役に立ちます。
- ③ そこでお願いしたいのは、高校の勉強は、社会に出てからも役に立つので、「全教科の高校の学校教科書」や「資料集」「地図帳」「年表」「辞書」「授業ノート」等は、決して処分しないこと。折に触れ読み直し、「深い理解」「自分のことばでいえる（表現・説明できる）」ことを、目指すよう、ご指導ください。
- 「高校教科書」「高校の授業ノート」を声を出して読み続けることは、「認知症対策（回帰療法）」としても、極めて役立ちます。
- (4) ① 各教科の「効果の上がる学習方法」を、折に触れご指導ください。
- ② 全ての職業で、社会に出てからも学び続けなければならないことは、極めて多いからです。
- ③ 本は、最後まで読むこと。本は、一生かけて、何回も読むこと。新聞を、毎日読むこと、図書館には毎週行くことなど、是非、ご指導ください。
- (5) ① 母校は、卒業生にとり、人生の大重要な一部分、DNAです。
- ② 卒業生のメールアドレスをしっかり管理し、公開されている学校行事を開催する際には、是非、教えてあげてください。
- ③ 卒業50周年、卒業30周年など、年度別に、入学式や、卒業式にご招待、終了後、お茶の会など開催していただければ、ありがたく存じます。



Q 5：企業の人材育成はどのように行っていますか。

A : (1) 「経営理念」の活用

- ①「高い倫理」
 - ②「高い学力」
 - ③「高い国際理解」
 - ④「自己学習能力の育成」
- これを自分なりに「活用」する。

(2) 「経営情報の共有と活用」

- ①所属企業が現在同のような状況に置かれているのか、経営数値を社内で公開、見える化を図っています。これを自分なりに「活用」。
- ②問題の所在（何が問題か）、原因の推定（その本当の原因は何か）、ではどうしたらよい（応急措置、システム・制度変更）
- ③成功事例の発見と、標準化、（ベストプラクティスのベンチマークリング、社内・同業他社・異業種のベストプラクティスのベンチマークリング）、
- ④PDCA、仮説・検証・評価。これらを、自分なりに「翻訳」、「活用」。



(3) 「EMPOWERMENT（エンパワーメント）」

- ①能力強化…「人に力をつけさせること」、「自立させること」、「自己実現の促進」、「地位向上」
- ②権限移譲…権限付与
○与えられた権限を、自分なりに「活用」。「自分から進んで活用する力」「主体的に活用する力」

(4) ①「自己責任」

- ②「自助努力」
- ③「自分の未来は自分で切り開く」「Never Give Up」

(5) 一人一人の塾生が「よく生きる」「多様な選択肢のある人生を歩むこと」「正常な社会の形成に貢献する（社会のお役に立つ）」ことができることを、まず第一に願う。

○以上が、人材育成のポイントです。

Q 6：学校、企業の役割について、

A : 「高校生のキャリア支援教育の充実」をご提案します。

(1) 企業経営者の出張授業の「受け入れ」と「提供」

○「経済同友会の出張授業」を、年間行事予定に組み込み「ご活用」ください。

(2) 普通科高校（大学受験が多い高校）でも、全生徒の「インターンシップ」の導入を。

(3) 埼玉県のよさ、素晴らしいところについて、学校と企業が協力し、戦略を立て、全ての高校生・保護者・地域社会の皆様にお伝えし、超少子高齢化、超人手不足の時代を乗り越えてまいりましょう。埼玉県の素晴らしいところ、潜在可能性を「インターンシップ」で少しでも知る機会をお与えください。

○「幸福の青い鳥」は身近にいる。埼玉県にたくさんいることを気付かせてください。

ご清聴、ありがとうございました。心から感謝いたします。

ご質問、ご意見、ご感想をお聞かせください。

